

英国の児童虐待対応・予防

：日本がなにを学べるか

2022年4月22日

小川紫保子

人権問題研究協議会 理事

子どもの居場所、ピノッキオ 理事

虐待とは

- ▶ **身体的虐待**...身体的な傷害、脳に障害など深刻なダメージを与える。死に至るケースも。乳幼児揺さぶり症候群(SBS)も
- ▶ **性的虐待**...日本では全虐待の3%ほどと言われているが氷山の一角。一生に渡って深い影響を与え、成人してうつ病や多重人格障害などを起こす（対象は乳幼児にまでいたる。おむつ替えの時などチェック）
- ▶ **ネグレクト**...身体的虐待よりも人格形成への影響が大きいと言われる。必要な保護がない場合は死に至ることも。医療ネグレクトなども含まれる。
- ▶ **心理的虐待**...今、一番対応件数が多い。人格形成や行動への影響。兄弟と比べての悪口、産まなければ良かったなどの暴言。面前DVも
- ▶
- ▶ **マルトリートメント**...虐待の前段階の不適切な扱い。教師や保育士による体罰や暴言も含まれる
- ▶ **ACEs** (Adverse Childhood Experience)・・・子供の逆境的体験。親の薬物、喫煙、怒鳴りあい、汚部屋での養育、アンパンに牛乳などの夕食など。自分のためのおもちゃの数、本の数、夏服、冬服、靴の数、自転車などは？誕生日、家族での旅行などのチェックポイント⇒ハイリスクファミリー
- ▶ **教育虐待**・・・子供のためと言いながら、過度な期待を押し付けて子供のウェルビーイングを侵すような教育をする。過度なスポーツや音楽の特訓なども含まれる。

英国の近年の児童虐待と政府のリスポンス

- ▶ 過去の大きな虐待死ケース: **Victoria Climbié(2000)事件**は社会に衝撃を与え、その後国会にLord Lamingによる事件の徹底的な検証レポートが提出された(2003)。そこでは担当社会福祉局の不手際が批判され、法やシステムの整備が行われ、Every Child Mattersという児童福祉政策の背景になった。
- ▶ しかしその7年後、同じ地方自治体からまた**大きな虐待死ケース(Baby P事件)**が出た。これもビクトリアと同じく、関わっていた社会福祉事務所の不手際とされた。(Peter Conery(2007)どちらもLondon Borough of Harringay)ビクトリアの事件から7年、なぜ改善されなかったのか？
- ▶ そこで新たにソーシャルワークの現場などを調査して行われたMunro Review(2011)で官僚的な事務処理を煩雑にするよりも、現場のソーシャルワーカーの質を上げ、その判断と権限を拡大するように提言がなされ、児童保護の現場のリフォームが試みられた。
- ▶ ラミング報告では、コモン・アセスメント・フレームワークや基本的手順の標準化など、児童保護の枠組みをしつかりと求めたが、ムンロー・レビューでは、現場の聞き取り調査を行い、現場のSWの実践の質を上げるための提言がなされ、二つの報告を生かして児童保護システムの改革をすすめてきている。
- ▶ ➡CSC(Children's Social Care)*により英国の地方自治体に児童保護のネットワークを作る、SWTF(Social Work Task Force)の設置、専門能力開発フレームワーク(PCF)の設定など。


*CSC will assess a child and their family's circumstances before the child can receive a service. This assessment may be an 'initial' assessment, which currently must be completed within 10 working days.

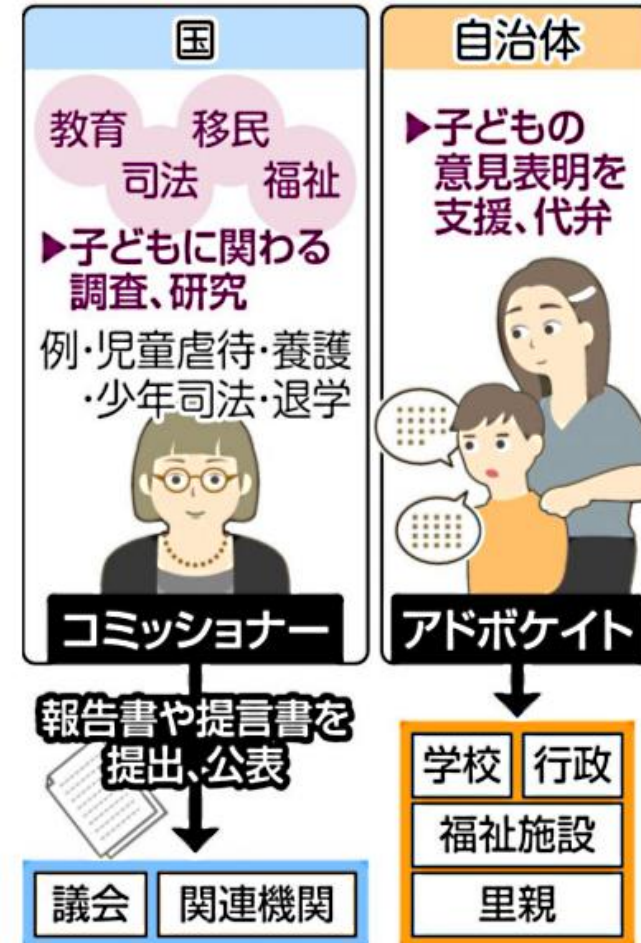
改革の例など

- ▶ Every Child Matters (2009) 子どものライフチャンスに公平にするという目的。シュアスタートなど。
<https://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20100202104304/http://www.dcsf.gov.uk/everychildmatters/resources-and-practice/TP00004/>
- ▶ 改革は、CSC (Children's Social Care)により英国の地方自治体に児童保護のネットワークを作る、SWTF(Social Work Task Force)の設置、専門能力開発フレームワーク (PCF) の設定など。CSCでは、通報後10日以内に子どもと家族の状況を、サービスを受ける前の「初動アセスメント」としてチェックする。
- ▶ CAF (Common Assessment Framework)のプロセスは開始から20日以内が良いといわれているが、厳密なタイムラインはない。またCAFの前にプレアセスメントという簡易なものがある場合が多い。
- ▶ CAFは児童本人か親、またはケアラーの同意がなくては行なえない。**CAFにより、Early Helpのサポートが入る**ことで、虐待の予防、あるいはそのエスカレーションを予防できることを親にも伝える。ただし児童法第47条が発動した場合は同意なく強制調査ができる。Significant harm (support or removeの境界)
- ▶ 2011年のムンロー・レビューで、各LSCBの責任と権限、SWの権限をもっと高めるように(現場中心主義)提言があり、今では各地域独自のCAFを作っている。またSWの質を高めるための専門性育成フレームワークが開発された。(Professional Capability Framework)
- ▶ Manchester (2019)
https://greatermanchesterscb.proceduresonline.com/pdfs/caf_guidance_practitioners.pdf

脆弱家庭へのサポート

- ▶ New Labour党の下、子供の貧困を2020年までに半減、という政策をとり、保守党になっても踏襲しているが、だいたひ予算は削られた。
- ▶ Every Child Mattersのもと、Sure Start開始:どの子供にもequal life chanceを、ということで幼児教育が行われている。
- ▶ ひとり親家庭へのサポートは、住居、家具などがフリーで提供される。
- ▶ 脆弱な子供の代弁者(アドボカシー)をたてる
- ▶ **問題を抱える家庭**(ACEs環境)に**Early Help**をいれる。
- ▶ 大きな3つの問題(Toxic Trio)
 - DV(家庭内暴力)
 - 薬物中毒
 - 親のメンタルヘルス

 **子どもの声を聴き、生かす英国の制度**



第三者が子の側に立ち、意見を伝える「アドボカシー」導入

子どものエンパワーメント

- ▶ 「子どもの権利条約」を小さいころから学校などでわかりやすく教えておく。→自分を大切にすること、人が自分にしてはいけないこと、など。
- ▶ ACEsとは子供時代の逆境体験をいう。(Adverse Childhood Experience) ACEsの環境に自分が生きていると思った場合、相談したり助けを求めることができるようにする→脆弱家庭の発見
- ▶ 性虐待の被害者・加害者にならないために、性行動において「同意」のコンセプトを教える。自分の体で、他人が触ってはいけない箇所などを教える
→幼少の子どもには絵本などで
- ▶ 何が虐待か、大人から何をされたら、信頼できる他の大人に相談するべきかを教えておく。
- ▶ 児童保護手続きに際し、子どもにも弁護士や代弁者としてのSWをつける(アドボケイト)。
- ▶ 上記の点は日本ではまだ遅れている

虐待のインディケーター、保育施設、学校、医療機関等

- ▶ 身体的、心理的、性的虐待とネグレクトなど確認できる虐待対応専門スタッフを置くこと。
- ▶ 観察によるスポッティング：**怪我、適切な歯科治療の有無、発達の遅れ、生徒の問題行動（年齢に合わない性行動含む）、不適切な衣服、遅刻・不登校など**
- ▶ **専門書の例を見て、こういった怪我やけどが事故でないかをスタッフに周知しておく。**
- ▶ 「悪い子」に注目し、その背景に虐待がないか。
- ▶ 生徒の行動変化に注目する。背後に虐待がないか。家庭環境の変化は？
- ▶ 虐待とは何かを生徒に理解させる
- ▶ 子供が自発的に助けを求めるように教育
- ▶ **虐待があった・疑った時の手順、手続きを教師、スタッフに周知徹底しておく**
- ▶ How schools can protect children from abuse | indirect （学校・教師への指針、UK）

日本の最近の虐待事件

- ▶ 子供の虐待はほぼ毎年過去最多を記録している
- ▶ 2018年3月:東京都目黒区、**船戸結愛(ゆあ)ちゃん(5歳)**、継父による暴行、過剰な食事制限により衰弱死。香川県の児相が2度一時保護。目黒区児相も家庭訪問を試みるが、目視は失敗。母親に対する精神的なDVも裁判で指摘。
- ▶ 2019年1月:千葉県野田市、**栗原心愛(みあ)ちゃん(10歳)**、父親による執拗な暴行により死亡。妻に対するDVを沖縄児相は把握。野田児相も虐待を把握。教育委員会が心愛ちゃんのアンケートを父親に渡すなどの失態。**救えた命。**
- ▶ 2019年6月:札幌市、**池田詩梨(ことり)ちゃん(2歳)**、母親と母親の交際相手による暴行と育児放棄による衰弱死。多数のあざや上半身の広範囲に及ぶやけど。近隣住民からの通報あり。警察と児相の間の認識に差があり、一時保護がなされなかった。
- ▶ 2019年8月:鹿児島県出水市、大塚璃愛来ちゃん(4歳)、母親と交際相手による暴行か？死因は溺死。頭部から下半身に複数のあざ。虐待として警察から保護要請もでていたが、児相は「ネグレクト案件」として保護せず。夜中に泣き声、虐待動画あり、との通報も。
- ▶ 統計では加害者は実の母親、実の父親が多いが、重大事件に発展しやすいのは血縁関係のない成人の存在(義父、母親のパートナーなど)

法改正へ向けて

- ▶ 結愛ちゃん、心愛ちゃんの事件をうけ、自民や超党派議員連盟が児童福祉法の抜本改正→体罰の禁止、民法の懲戒権の規定見直しなど
- ▶ 提言では、児童相談所から警察に必要な情報が速やかに提供されるよう、すべての児童相談所に警察官や警察官のOBを配置すべき、と。→児相は乗り気ではない(支援担当と、親子分離担当を分ける?)というニュースも。
- ▶ 児童虐待防止法**改正にて、体罰の禁止を明記(2019年6月成立、2020年4月より施行)**
- ▶ 民法820条、822条の**親権の懲戒権の見直しについては、当時は慎重。改正法施行後2年をめどにその在り方を検討**するとした。
- ▶ **2022年2月には、法制審議会の専門部会は、懲戒権の規定を削除し、体罰を禁止する規定を新設**する方針を固め、2月上旬に要綱案を取りまとめ、同月中旬の総会で正式決定、古川禎久法相に答申する見通しと報道。要綱案では、規定を削除する代わりに、親の行動について「子の人格を尊重するとともに、子の年齢および発達の程度に配慮しなければならない」との規律を設け「体罰その他の心身に有害な影響を及ぼす言動」の禁止を明記する、とした。

	日本	英国
人口 (2020)	126 million (1億2600万人)	67 million (6700万人)
子供人口 (15歳未満, 2020)	15.7 million (12%、1570万人) ➡14.9(2021)	11.8 million (18%、1180万人)
首都人口 (2021)	13.2 million (1320万人)	8.2 million (820万人)
出生率(/1000, 2022)	6.95 (224 th out of 228 countries)	10.79 (178 th)
GDP/capita US\$(WB 2020)	40,193 (492.3万円)	41,059 (503万円)
貧困率(トータル、 OECD 2020)	15.7% (40か国中、高い方から11番目、 2018)	12.4% (17番目、2019)
子供の貧困率	14.0% (2018、39か国中高い方から16番目)	14.1% (2019、増加傾向、15番目)
医療費	30% の自己負担	無料(NHS)
義務公教育費	楽器など、一部負担	無料 (State school)
児相の数	全国で219か所(令和2年)、東京に15か所 (令和4年)	イングランドに152か所、ロンドンには33区にそれぞれ1か所
児童福祉士の数	4,234人(2020)	32,502人(2020)
虐待対応件数	205,029件のケース (2020)	244,197件のケース (2020、イングランドとウェールズ)
職員一人の担当 ケース数	11自治体で80－100件を超え、ばらつきが ある。児相平均で30件、市町村で64件、全 件の平均が57件。(2019)	平均で16.3件 (2021)
過去数年の虐待死 数	55－70件の間で推移	平均で68件

102,291 looked after children (社会的擁護) in the UK

Foster care is the most common placement type for looked after children.

Across the UK, the most common placement for a looked after child is living with foster carers.

	England 31 March 2019	N. Ireland 31 March 2019	Scotland 31 July 2019	Wales 31 March 2019
Proportion of looked after children in foster placements (includes kinship care)	72%	79%	63%	71%
Placement with parents	7%	11%	25%	16%
Residential accommodation	14% ⁷	6%	10%	7%
Other	8%	4%	2%	7%

(Sources: DfE, 2019a; DoHNI, 2019a; Scottish Government, 2020a; Welsh Government, 2019c.)

⁷ Includes secure units, children's homes, semi-independent living, residential schools and other residential settings

日本の社会的養育について （施設は2020年、里親・ファミリーホームは2019年資料）

養育のタイプ	総数： 40,021人
児童養護施設	24,539人
乳児院	2,760人
母子生活支援施設	3,367世帯（児童5,626人）
児童心理治療施設	1,370人
自立支援施設	1,201人
自立援助ホーム	662人
里親 （ファミリーホーム）	7,492人（うちファミリーホームは1660人）

行政と社会の役割分担: 社会的資本のできること

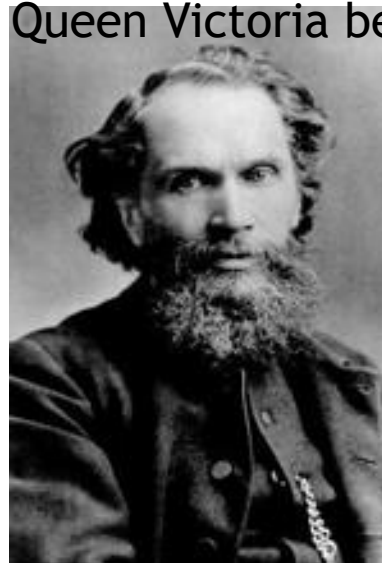
- ▶ **1次、2次、3次介入**: 行政-2次(児童保護と社会的養護)、社会・コミュニティ-1次(予防・ユニバーサルサービス)と3次(再発防止)
- ▶ 福祉の知識が無くとも、社会やコミュニティが担える役割とその重要性)
- ▶ 1) **Good people (人間関係、人脈)** Our experience teaches us time and time again that what makes a difference in people's lives are **strong and meaningful relationships with good people who care**. Providing **a positive network of good people** is essential. (親支援、ケアリーダー支援など)
- ▶ 2) **A purpose (教育、就労、ボランティア活動など)** Having something meaningful to do is essential for people trying to build better lives for themselves and their families. That could be **a job, an apprenticeship, education, training or even a social action project** that contributes positively to their communities.
- ▶ 3) **A good place to live (良い地域環境)** **If a person has a good place to live, a community where they feel safe and at home, they can properly focus on making changes in the rest of their lives.** This is also about encouraging and enabling communities to be more active and engaged, a vital first step in creating a thriving and prosperous society.

NSPCC: The Oldest Charity for Child Protection in the UK



NSPCC Poster 1916

London Society for the Prevention of Cruelty to Children (London SPCC) established by Lord Shaftesbury, Reverend Edward Rudolf and Reverend Benjamin Waugh. After five years of campaigning by the London SPCC, Parliament passed the first ever UK law to protect children from abuse and neglect in 1889. The London SPCC was renamed the **National Society for the Prevention of Cruelty to Children (NSPCC)** in 1889, because by then it had branches across Great Britain and Ireland. The NSPCC was granted its Royal Charter in 1895, when Queen Victoria became its first Royal Patron.



Reverend Benjamin Waugh, founder of NSPCC, 1884

Care Leavers Foundation



Support the foundation and

[DONATE](#)



Supporting care leavers

We're there for people who've been in care

[LEARN MORE](#)



Catch 22

- ▶ Helps care leavers by three levels (providing social capital)
 - ▶ Connects to necessary support and people
 - ▶ Educates and trains to find jobs/careers
 - ▶ Provides place to live
-
- ▶ Looked after children and care leavers - Catch22 (catch-22.org.uk)



Coram Baaf, パーマネンシー (adopted - 2,870/80,850, Looked After Children, 2021)



Supporting agencies and professionals who
work with children and young people



PAC UK: Adoption & Permanency Support



[Home](#) [About](#) [Our Services](#) [Training](#) [Support Us](#) [News](#) [Contact](#) [FAQs](#) [Members](#)

**Specialist Therapy, Advice, Support, Counselling & Training
for all affected by Adoption & Permanency**

**Specialist
Therapeutic Child
and Family Service
for Adoptive
Families**

PAC-UK's Child and Family
Service provides specialist



Advice and Support

Our purpose is to provide anyone who has been affected by adoption or other forms of permanent care, as well as the professionals who support them, with expert, independent advice and counselling.

PAC-UK Services

- **Access to Adoption Records, Searching and Intermediary Service**
- **Adoptive Parent/Carer Support Services**
- **Adopted Teens Identity Project (AT-iD) for Adopted Teens**
- **Child and Family Service for Adoptive Families**
- **Counselling for Adults Adopted as Children**
- **Education Service for Schools, Parents and Professionals**
- **First Family Service for Birth Parents and Birth Relatives**
- **Peer-to-Peer Parent Consultant Service for Adoptive Families**
- **Support Groups for Birth Parents and Adoptive Parents**
- **Training Service ([view our full Training Programme here](#))**

Coin Street Community Builders (予防としての家族支援)

Coin Street Community Builders originated in



Search

Who We Are | What We Do | Shop, Eat, Drink | Events & Activities | Community | Sports & Fitness | Venue Hire

Co-operative Housing

[Our Community](#)

Our Developments

Commercial Activity

Consultancy

WHAT WE DO / OUR COMMUNITY

Our Community



We work to enable people of all ages to actively engage in education, play, sports, health, arts and their community.

Free educational activities and affordable childcare

The Coin Street neighbourhood centre in Waterloo, London SE1, offers families and children high quality and affordable programmes, providing integrated childcare and early years education. As the designated Children's Centre in the area, it offers an Ofsted registered 84-place day nursery and holiday play schemes; support for parents and carers, and a range of fun family activities.

For our full programme of activities [visit our family activity pages](#) or download our latest [Family, children and babies leaflet](#) as a PDF.



Nursery

84-place day nursery providing quality, affordable childcare and education for children from 3 months to 5 years.



Holiday Play Scheme

Holiday play scheme sessions run throughout the school holidays (Monday to Friday) for children aged 4 years 6 months -11 years.



Family Support

Our family support and outreach team offer a wide range of services to local parents and carers. We offer one-to-one advice – either at the centre by appointment, or we can arrange to visit you in your own home.

Family Activities

Coin Street family and children's centre provides a range of high quality and affordable programmes for children and their parents and carers, based either at the [Coin Street neighbourhood centre](#), Colombo Centre or Blackfriars Settlement. You can also download our latest [Family, children and babies leaflet](#) with details of our activities as a PDF.

*Please note: some sessions are **term time only**. 2017 term dates: Tuesday 18 April – Friday 26 May 2017, Monday 5 June-Friday 21 July.

INSET days (when the centre is closed for staff training): 27 April 2017



Babies Stay 'n' Play
Free
Fridays, 10-11.30am
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



Group exercise session
Free
Fridays, 1.30-3pm
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



Home from Home
Free
Tuesdays, 9.30-12pm
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



LGBT Parents Group

Free

Saturdays, 10am-12pm

Coin Street neighbourhood centre



Milk spot

Free

Wednesdays, 10am-12pm

Coin Street neighbourhood centre



Nutrition Advice Session

Free

Various dates and times

Coin Street neighbourhood centre



Place 2 be

Free

Fridays, 1.30-5.30pm

Term time only*

Coin Street neighbourhood centre



Saturday Stay 'n' Play

£2 per family suggested donation

Saturdays, 1-3pm

Coin Street neighbourhood centre



Speech and Language Drop-in Advice Session

Free

Various dates and times

Coin Street neighbourhood centre



Tuesday Stay 'n' Play
Free
Tuesdays, 10am-12pm
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



Young Parents' Midwives Antenatal Session
Free
Thursdays, 9.30am-3pm
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



Arise
Free
Wednesdays, 10am-12pm
Term time only*
Coin Street neighbourhood centre



Dad and Male Carers Group
Free
Saturdays, 1-3pm
Coin Street neighbourhood centre



NEW! Waterloo and North Southwark Twins & Triplets Club
Free
First Friday of the month, 1-3pm
Coin Street neighbourhood centre



Wednesday Stay N Play
Free
Wednesdays, 10am-12pm
Blackfriars Settlement

A mix of quality social & commercial housing on London's South Bank

To date, CSCB has developed 220 high quality, well designed homes at affordable rents for people in housing need. The homes – a mix of 1, 2 and 3 bedroom flats, and 3, 4 and 5 bedroom houses – are run by four fully mutual housing co-operatives: [Mulberry](#), [Palm](#), [Redwood](#) and [Iroko](#). New homes to buy are planned for the forthcoming [Doon Street development](#).



Introduction to co-operative housing

The idea behind co-operative housing, and how it works at Coin Street.



Coin Street Housing Co-operatives

Information on Iroko, Mulberry, Palm and Redwood housing co-operatives.



Applying for co-operative housing

How to apply for residence in a Coin Street housing co-operative.



Commercial housing

New homes to buy as part of a major development on our Doon Street site.



My Tenancy

コミュニティのソーシャルキャピタル(社会資本)とは

- ▶ なぜ近代日本で地域コミュニティが壊れたか？戦後の経済活動による労働力の移動、神社やお寺など宗教的結びつきの喪失
- ▶ 地理的コミュニティ：住んでいる地域のコミュニティ(自治会、子供会、PTAなど)、非地理的コミュニティ：趣味や興味、同じ悩みなどでつながるコミュニティ(アスペルガー親の会、ネット上など)
子どもの成長にとっては地理的コミュニティの環境の質が大きい
- ▶ SCとは、コミュニティ内の人々のネットワークであったり、お互いの信頼度の高さであったり、双方向の支援であったりする。
- ▶ **子どもの育つ環境としてのコミュニティの重要性：子どもがひとりで通りを歩いていることに不信感を持って注目するコミュニティか否か？(ガルバリノ)** 老人がボーリング場で自分の悩みを話せるコミュニティか否か？(パットナム) つまり、他人に関心を持ち、支援をする意思があるか？→ コミュニティ内のSCの高さ。
- ▶ 児童虐待と社会経済的コンテクスト-エコロジカル・アプローチ(ガルバリノ) → 児童虐待は社会経済的な要因が背景にある、という立場
- ▶ 日本でも子育ての会や子ども食堂など、地域の親や子どもをサポートする動きはある。→ **虐待予防という1次的介入の役割**

今、社会ができる予防的介入

- ▶ **家庭内の様々なストレスが、児童虐待の背景要因や引き金になる**ことは研究結果として報告されている。
- ▶ 社会で自発的に支え合うネットワーク（SC）はかつて宗教的施設や自治会などを通してできていた。➡ NPOやボランティア活動としてオーガナイズされた現在のSCの形は、若い人に受け入れられやすい
- ▶ 子育て支援（親に対して）
- ▶ 子ども支援（学習支援、食事提供など）
- ▶ Toxic trio, 親のDV、親の薬物・アルコール中毒、親のメンタルヘルスの自助グループなど
- ▶ ひとり親支援
- ▶ ステップファミリー支援
- ▶ 前科のある人の就職（親支援）
- ▶ 児童虐待についての啓蒙活動（学校、保育園、病院、地域活動等に対して）
- ▶ ケア・リーバー支援（今後の健やかな家庭形成につながる）

日本のNPO, 地域社会のボランティア活動など

- ▶ 児童虐待関係の支援団体(Jaspcan, 子どもの虹、オレンジリボン運動、etc)
- ▶ 地域のお母さん同士による子育てグループなど
- ▶ 子ども食堂、おうち食堂(心ある有志によって、**東京都北区のピノッキオ**)
- ▶ 病児保育(フローレンスなどNPO)
- ▶ 母子家庭支援(しんぐるまざーずふぉーらむ、etc、男性一人親は?)
- ▶ ケア・リーバーの援助施設(かりよん、たんぽぽ、いっぽなど161箇所)
- ▶ DV(全国女性シェルターネット(男性は?))
- ▶ 薬物(薬家連、東京ダルク、大阪フリーダムなど)
- ▶ アルコール依存(ASKアスク)
- ▶ ステップファミリー(SAJ)
- ▶ ホーム・ビジター支援(Home Start Japan、傾聴のみ)
- ▶ 身元保証(もやい、きずな、日本保証サポートセンター、リング(預託金など))
- ▶ **知識ベースとしての専門性の積み重ねが足りず、まだまだ行政を動かす大きな力になっていないNPOが多いこと、資金不足で活動が継続できないことや、地域によってサービスがないなどばらつきがあることなどの課題あり**

社会資本としてのNPOと地域ボランティアを生かすには

- ▶ **NPOなどを社会資本(ソーシャル・キャピタル)として活用するには、サステナビリティが重要**
→ 資金をどう集めるか？ Fund raisingのノウハウ(英国では大学のコースとしても。スタッフ募集にFund Raiserと)
- ▶ 民間でなければ持てない社会資源やフレキシビリティを生かす
- ▶ 行政の委託ではあっても、民間組織の自由度や特徴を殺さない支援が強み
- ▶ すでにある設備の活用、民間からのチャリティ寄与の受付は、税制優遇等、リワードを明確にする
- ▶ 地域の退職者をSCとみなし、その有効活用で少子高齢化のバランスをとる→コミュニティ意識の高まりにもつながり、地域全体としてのリスクが低下する(時間、経験値、場などで貢献)
- ▶ **NPO及び地域ボランティアの査定、助成金の獲得、危機管理の研修や法的な支援などの提供、エビデンスとしての効果測定や統計の管理などにも政府や大学などの協力を得て、専門性を高めることで、セオリー&プラクティス(理論と実践)として行政に働きかけ、行政からの予算を確保するツールとできる。 ➡行政は民間の知識や専門性を有効に利用することができる。**